

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 ・ 36	言葉かけが一番難しく永遠のテーマである。 自分で認識できないが、本人や周囲に不快感を与えている場面は多くの場面で見られる。 その場で注意しあえる環境が一番だが、国民性から難しいと思える。 自分で気付けることが改善の一番だが、客観的な視点を持つことが出来ていない。	1 誰が聞いても心地よい声のかけ方をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりのある仕事をしていく。 ・排泄介助や入浴介助などの声かけを「今の言葉で良いか」瞬時に振り返ることで、自分の中に気づきを求めていく。 ・もう一人の自分が客観的に今のケアを見ていける訓練を日常の中でしていく。 ・声の大きさやトーンに配慮し、職員も環境の一部だということを再認識していく。 ・遠くからの声かけは避けて対象者の傍にいて話をする。 ・耳の遠い利用者にはボードを活用していく。 ・施設内の音に敏感になって、職員自身が雑音を出していないか注意する。 ・振り返りの場(質の良い研修)に参加していく。参加した職員は得た物を持ち帰り共有できるようにしていく。 	12ヶ月
2	16 ・ 19 ・ 33	家族との関わりが、以前と比べると入所者もそうだが職員や施設自体も希薄になっている。 グループホーム本来の機能を取り戻すためにも、家族との関係の再構築が必要だと考える。	1 家族と施設の両面から利用者の生活を支えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時には手を止めて、近況報告を行う。 ・何かあれば今まで以上に細やかに連絡して相談していく。 ・要望等を出しやすいように、投書箱の活用を案内していく。 ・季節ごとの衣類の入れ替え等を家族会を通じてお願いすることで、グループホーム本来の家族との関係を保てるようにしていく。 	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。